

除草剤の散布とその生育

石 沢 進

ユキツバキの自然状態における分布や変異について知ることが主な目的で山野を歩いている。また、ユキツバキと人の生活にも関心を持っており、情報を集めている。ここでは、ユキツバキと人の生活の一端をとりあげてみたい。

道路沿いに繁茂する草は、交通の邪魔になるので、それを鎌などで刈りとっているが、近年除草剤を散布して枯死される方法で除草を行なっている。その結果、道路沿いという陽のよく当る条件に生育している植物が消滅することもあったり、草が生えていない地面の露出部が乾いたり、湿ったりの繰返で崩壊し、路肩を弱めている。また、除草剤で枯れた法面をみながら道路を走っていても気分が悪く、殺伐とした印象を与え、景観が好ましい状況ではないと思う。

除草剤を散布した道路の法面にユキツバキが点々と生えている状況に遭遇したことがある。使用する除草剤の種類や散布の量・濃度によってユキツバキも枯死すると思うが、道路の法面でのユキツバキの生育は樹林下にあるものよりも、叢状になり、葉が多くつき、葉面に光沢があって、緑色も濃くて良好のようである。

除草剤で草は枯れてもユキツバキは枯死せずに残っているので、緑の叢状の株が目を引く存在となる。ユキツバキの根が草本に比べて地中に深く、また広く発達していることの現われとして興味深い。このような生育の状況は、県内でも山間地のユキツバキの分布域の道路沿いにみられる景観であり、掲載の写真は小千谷から川西町へと連なる道路沿いである。

多雪地の道路わきをユキツバキで埋めつくすことにより、道路法面の保護につながるとも考えられる。ただし、冬季に道路が除雪して、厳寒期に寒風にさらされるようでは、冬の寒風害を受けるので、道路に近接した状態での生育は無理であろう。

いずれにしても、道路沿いの除草剤散布の後に生き残ったユキツバキの生育の状況に注目してみたい。ユキツバキが分布する地域で道路沿いにそれが生垣状に育っているとしたら、雪国の特色を示す景観でもあり興味深いことである。そのような状況に出会ったら、一報頂ければ幸いである。

